



おはなしトレイン

2014. 7

なつのワクワク号



がくねん 学年ごとに おすすめの本を しょうかいします。小さいスイカのマーク  は 読みやすい本。大きいスイカのマーク  は すこし長めの おはなしです。ぜひ チャレンジしてください。

1・2ねんせい
のイチオシ!

ダニエル・カーク/作
わたなべてつた/訳
(瑞雲舎)

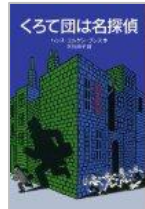


 『としよかんねずみ』

サムはとしよかんにすむ、本が大すきなねずみです。ある日、じぶんで本をかいて、としよかんのたなにおいてみたところ、それが大ひょうばんに。かんちょうさんから「としよかんにきて、お話をかくひけつをおしえてください」とてがみがとどきます。さあ、サムはどうするでしょう。

3・4年生
のイチオシ!

ハンス・ユルゲン・
プレス/作
おおとそれいこ
大社玲子/訳
(岩波書店)



 『くろて団は名探偵』

せいぎのみかた “くろて団”！ 今日もギシギシきしむ本部に 集したのは、フェリックスとアデーレ、ロロにキキと相棒のリス、4人と1ぴき。事件を解くカギは、「注意深く観察すること」。ある日、本部の向かいの家から、不思議な物音が…さあ、事件のにおいがしてきました。くろて団は、なその家を見張ることに。いったいどんな悪たくみが行われているのでしょうか？

5・6年生
のイチオシ!

マリアン・マロー
ン/作
はしもとめぐみ
橋本恵/訳
(ほるぷ出版)



 『12分の1の冒険』

アメリカのシカゴ美術館には、実物の12分の1の大きさで精密に再現されたミニチュアルームが展示されています。12歳の少女ルーシーは、美術館で偶然手に入れた不思議な鍵を使うと、小さくなることを発見しました。さっそく、親友で幼馴染のジャックと夜の美術館に忍び込み、ミニチュアルームに入ろうとしますが、そこには思いがけない冒険と謎が待ち受けていました…!

1・2

ねんせい



『きえた犬のえ ぼくはめいたんてい 1』



マージョリー・W・
シャーマット／文
マーク・シマント／絵
みつよしあつや ちか
光吉夏弥／訳
（大日本図書）

ネートはパンケーキが好きな男の子。しかし、ただの男の子ではありません、めいたんていなのです。今日も、仲よしのアニーにたのまれて、彼女がかいた犬のえを探すことになりましたが…。ネートは、すどいかんさつ力とひらめきで事件をかいけつします。きみはネートより先に、この事件のなぞがとけるかな？



『キュッパのはくぶつかん』

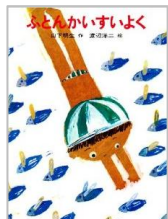


オーシル・カンスタ・ヨンセン／さく
ひだにれいこ／やく
（福首館書店）

丸太の男の子、キュッパは森にすんでいます。さんぼで集めた「おもしろいもの」がいっぱいになったので、物知りのおばあちゃんにそうだんして、はくぶつかんを作りました。みんなをよろこばせようとがんばったキュッパですが、はくぶつかんのしごととはとても大へん！



『ふとんかいすいよく』



やましたはるお ぎく
山下明生／作
わたなべまさし ちか
渡辺洋二／絵
（あかね書房）

「かなづち」だけと「耳だれ」で今年の夏はプールに入れないカズくん。そんなカズくんに、とうちゃんが、穴じょうのへやーめんにふとんをしいて、「ふとんかいすいよくじょう」を作ってくれました。とうちゃんによる、すいえいとつくんはいつの間にか大ぼうけんに…！



『こうさぎのあいうえお』



もりやまみやこ ぎく
森山京／作
おおにすけいこ ちか
大社玲子／絵
（小峰書店）

こうさぎとこぎつねとこりすは、字をかく練習をしています。でもきつねの「ね」はなんてむずかしいのでしよう！ 何度もくりかえしてやっとかけるようになりました。そして今度は、お手紙に挑戦します。字をはじめて習ったときのうれしい気持ちを思い出しますよ。



『エパミナンダス』

愛蔵版おはなしのろうそく 1』



とうきょうこ としよかん
東京子ども図書館
／編
おおにすけいこ ちか
大社玲子／絵
（東京子ども図書館）

エパミナンダスは、おばさんにもらったケーキをギュウツとにぎりしめて帰りました。しかしケーキはくずれ、どこへやら。それを見たおかあさんが「帽子の中へいれて帰ってくるんだ」と言います。けれど、次にもらったものはバターで…。とびきりのお話10話がつまった一冊です。



『なつやすみ虫ずかん』



みやたけより ちか
宮武頼夫／ぶん
ひらたつむの ちか
福田務／え
（福首館書店）

なつやすみ、このえほんに出てくるきれいな虫たちと出会えるかもしれません。公園や山や野はらに行ってみて、どんな形やようすをしているのか、かんさつしてみましよう。虫はせかいで一ばんしゅるいの多い生きもの。虫となかよくなって、たくさんの友だちをつくりましよう！

『みどりのゆび』



モーリス・ドリュ
オン／作
安東次男／訳
(岩波書店)

チトはお金持ちの家の男の子です。学校になじめず、家で庭師のおじいさんたちとすごすうちに、自分のゆびにふしぎな力があることに気づきました。そのうち、父親の工場で戦争に使う武器を作っていることを知ってしまったチトは、ゆびの力を使ってあることを始めました。そのあることとは…？

『星モグラ サンジの伝説』



岡田淳／作
(理論社)

流れ星がおちた日に生まれたモグラのサンジは元氣いっぱい。かあちゃんの教えどおりになんでも食べて力をつけると、猛スピードで岩をほりぬき、モグラなのに空を飛べるほどに成長します。ところが、そんなサンジを止めようと、年よりモグラたちは会議を開くことになりました。さて、サンジはどうなるのでしょうか。

『きつねものがたり』

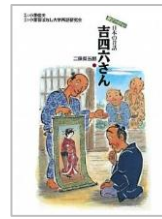


ヨセフ・ラダ／
作・絵
内田莉紗子／訳
(福音館書店)

人間と暮らしていたきつねくんは、毎日本を読んでもらううちに、言葉が話せるようになってきました。そしてお話に出てくるような、ずるがしこいきつねにあこがれ、家を飛び出して森で暮らし始めます。最初は失敗続きですが、きつねくんはとうとうりっぱな仕事を手に入れるのです。

『吉四六さん』

語りつぎたい日本の昔話・6』



小澤俊夫／監
修・再話
二俣英五郎／絵
(小峰書店)

昔むかし、仁王さまがおならをしました。村の人たちがみんな「くさいくさい」といいました。すると、仁王さまはなんと答えたでしょうか？
とんち好きで有名な吉四六さんや一休さん（実在の人物です!）のお話など、短くて、くすつと笑える日本全国の昔話63話が収められています。

『フィボナッチ』

自然の中にかくれた数を見つけた人』



ジョセフ・ダグニ
ズ／文
ジョン・オブライ
エン／絵
渋谷弘子／訳
(さ・え・ら書房)

子どもの頃から数が大好きで、夢中になるあまり“のうなし”と呼ばれていたレオナルド。数について考え続けた彼は、自然界のさまざまなものが決まった数からできていることに気が付きます。数の神秘と美しさを感じられる、中世の数学者レオナルド・フィボナッチの物語。

『海賊』



田島征三／作
塩澤文男／
デザイン設計
(ポプラ社)

手下のいない、たったひとりの海賊は、魚もたこも海鳥も、海にすんでいるみんなが友達です。ときには、島人達を苦しめる悪い奴と戦うことも。そしてある夜、海賊は、船のへさきで泣いている人魚に恋をしました。ふたりは、静かに幸せに暮らしていましたが、人魚は、時々ひっそりと泣くのです…。

『転校生は忍びのつかい』



加部鈴子／作
平澤朋子／画
(岩崎書店)

浩太のクラスに宗助という転校生がやってきました。宗助は「猿」とからかわれても「ウキッ」と返事をする一風変わった子です。夏休みの間、宗助と浩太はどんどん仲良くなっていきました。けれども不思議な事件をきっかけに、二人の思い出が思わぬ方向に進んでいきます。

『番号をどうぞ』

星新一ショートショートセレクション



星新一／作
和田誠／絵
(理論社)

カード番号を伝えるだけで、何でもできる便利な世界。しかしそこには、大きな落とし穴があったのです…。何だか現在とあまり変わらない気がしますが、じつはこれ、40年前に星新一が書いた未来のおはなし。今の世の中、大人の世界はどこもかしこもパスワードだらけ。うっかり忘れると大変なことになるのです。他15編。

『少年口伝隊一九四五』



井上ひさし／作
ヒラノシユキ／絵
(講談社)

原爆投下後のヒロシマ。国民学校の6年生だった英彦、正夫、勝利の3人は、新聞の代わりにニュースを伝えて歩く「口伝隊」の一員となります。彼らの日々を通して、戦争、原爆症、そして自然災害に晒されたヒロシマの人々の様子が伝わってきます。劇作家井上ひさしによる朗読劇をもとにした本です。

『ドローセルマイヤーの人形劇場』



斉藤洋／作
森田みちよ／絵
(あかね書房)

エルンストはある日、不思議な目をした老人ドローセルマイヤーと出会います。彼は人形劇を演じる人でしたが、それを見たエルンストは目をみはります。まるで人形が生きているよう…。運命の糸にあやつられるように弟子入りしますが、ドローセルマイヤーの人形劇にはおどろきの秘密が…！

『アート少女』

根岸節子とゆかいな仲間たち



花形みつる／作
(ポプラ社)

部室無し、一文無しの美術部が、部存続のために立ち上がる！諦めの悪い部長根岸節子とクールな副部長、オタクでマニア&美術教官登校の1年生コンビに、絵を描かない新入部員、5人になった新生美術部員の個性がぶつかり合って…。「突き抜けていて、バカバカしくて…、なんとというか、崇高だ。」

『アナ=ラウラのタンゴ』

パパの謎を追って



ヨアヒム・フリード
リヒ／作
平野 鞠子／訳
(ポプラ社)

2年前にアルゼンチンで火事にあい、死んだはずのパパがタクシーに乗っていた！真相を探るアナがやっとつきとめたタクシーの運転手は、「その人はタンゴの話をしていました」と教えてくれました。パパとタンゴのことをたずねられたおばあちゃんは、突然暴れだして…謎はますます深まるばかり。